『化学本論 / 片山正夫著』

1915 年，内田老鶴圃

本学化学教室の初代教授・片山正夫氏の著書です。大正から昭和初期にかけて必須の教科書として化学界に重宝し、さらに作家・宮沢賢治氏が法華経と共に机上に置いていた愛読書としても有名です。その内容は、従来の学説にはない独創的な化学観に貫かれ、文章は独特の調子に満ち、序文から武田信玄「風林火山」の応用によって読者を引き込みます。

> 静かなること林の如(ごと)きギッブス先生が其(そ)の不朽の研究を公(おおやけ)にし、疾(はや)きこと風の如(ごと)きファントホッフ先生が三大論文を連発して天下を驚倒(きょうとう)してより、早(はや)四十年にならんとする。

（「化学本論」序文より引用、旧漢字は現在の漢字に直しました）

昭和初期までの化学界では数学が重要視されていなかったため、片山教授は数学を不得手とする学生のために、熱力学で微分を用いないなどの工夫で講義を行っていました。本書はその講義資料を基に執筆されたと推定されており、農林学校の出身で、化学を専門としていなかった宮沢賢治氏の座右の書であった理由の一つと言われています。

片山教授は学生の頃の熱力学に納得できない点が多かったため、将来は「自力で我流に熱力学を組み立ててみると決心した」という回想が残っています。この時の決心が、後に「化学本論」に結晶化したと言えるでしょう。

参考：『宮沢賢治と片山正夫著「化学本論」』，広田鋼蔵，現代化学，1989.2
「東北化学同窓会報：化学教室創立 100 周年記念号」，2013

■片山正夫 かたやま・まさお（1877–1961）

明治から昭和にかけての物理化学者。岡山県生まれ。東京高等工業学校教授、東北帝大教授を経て東京帝大教授となる。液体の表面張力と温度との関係式(片山式)で知られ、日本における近代理論化学の分野をリードし、日本化学会会長などを務めた。著作に「化学本論」「分子熱力学総論」など。日本古代史にも篤く、晩年は思索と執筆に過ごした。

【参考：日本人名大辞典、日本国語大辞典】

（写真：東北大学史料館写真 DB より）

■宮沢賢治 みやざわ・けんじ（1896―1933）

岩手県生まれの詩人・童話作家。農学校教諭を勤めるかたわら詩集「春と修羅」、童話集「注文の多い料理店」を自費出版する。その後花巻市郊外で開墾自炊生活にはいり、羅須地人(らすちじん)協会を設立して農民指導に献身した。肥料設計と稲の品種改良による増収、労働と宗教と芸術とを一体化した農民独自の文化の創造がその理想であった。代表作に「風の又三郎」「銀河鉄道の夜」「雨ニモマケズ」など。独特の宇宙感覚に富み、高い宗教的理想と実践活動に根ざした賢治の文学は、その特異性と純粋さとスケールの大きさにおいて類を見ないものである。

【参考：日本人名大辞典、国史大辞典】

（写真：ジャパンナレッジより）